

テーマ：消費者物価（全国11月、東京都区部12月） 発表日：2008年12月26日（金）
 ～ 09年2～3月にマイナス圏に。その後もマイナス幅が急速に拡大へ ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料	総合	生鮮除く総合	食料（酒類除く）及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信用料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
07	1月	0.0	0.0	▲ 0.2	3.4	▲ 0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲ 0.2
	2月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 2.3	0.0	0.0	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 2.3
	3月	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 1.4	▲ 4.1	0.1	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 1.4	▲ 4.1
	4月	0.0	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 0.6	▲ 4.1	0.1	0.0	▲ 0.2	0.0	▲ 4.1
	5月	0.0	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 4.1	0.0	0.0	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 4.1
	6月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.4	1.4	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.3	2.5	▲ 4.1
	7月	0.0	▲ 0.1	▲ 0.5	2.1	▲ 4.1	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.3	3.1	▲ 4.1
	8月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.2	0.4	▲ 4.1	▲ 0.3	0.0	▲ 0.2	0.7	▲ 4.1
	9月	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 4.1	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 4.1
	10月	0.3	0.1	▲ 0.3	2.3	▲ 4.1	0.1	0.0	▲ 0.3	2.8	▲ 4.1
	11月	0.6	0.4	▲ 0.1	9.3	▲ 3.9	0.3	0.1	▲ 0.1	11.0	▲ 3.9
	12月	0.7	0.8	▲ 0.1	15.1	▲ 3.9	0.4	0.3	▲ 0.1	16.8	▲ 3.9
08	1月	0.7	0.8	▲ 0.1	15.6	▲ 4.0	0.3	0.4	0.0	17.1	▲ 4.0
	2月	1.0	1.0	▲ 0.1	17.5	▲ 2.0	0.4	0.4	▲ 0.1	18.8	▲ 2.0
	3月	1.2	1.2	0.1	18.2	▲ 0.1	0.6	0.6	0.1	19.7	▲ 0.1
	4月	0.8	0.9	▲ 0.1	6.9	▲ 0.1	0.6	0.7	0.0	4.6	▲ 0.1
	5月	1.3	1.5	▲ 0.1	17.6	▲ 0.1	0.9	0.9	0.1	18.3	▲ 0.1
	6月	2.0	1.9	0.1	23.9	0.7	1.5	1.3	0.3	24.6	0.7
	7月	2.3	2.4	0.2	28.8	0.7	1.6	1.6	0.3	28.9	0.7
	8月	2.1	2.4	0.0	28.0	0.7	1.3	1.5	0.2	26.8	0.7
	9月	2.1	2.3	0.2	23.7	0.7	1.4	1.7	0.5	22.6	0.7
	10月	1.7	1.9	0.2	15.0	0.7	1.2	1.5	0.4	11.6	0.7
	11月	1.0	1.0	0.0	▲ 3.8	0.8	1.1	1.1	0.2	▲ 9.3	0.8
	12月	—	—	—	—	—	0.7	0.8	0.2	▲ 22.1	0.8

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

○早ければ09年2月にもマイナスへ

11月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+1.0％と、11月の同+1.9％から伸びが大きく縮小し、コンセンサス（同+1.0％、レンジ+0.9％～+1.6％）通りの結果となった。12月の東京都区部も同+0.8％と前月の同+1.1％から伸びが鈍化した。こちらもコンセンサス（同+0.8％、レンジ+0.6％～+1.3％）通りである。原油価格急落に伴う石油製品価格下落を背景に、消費者物価の鈍化傾向が鮮明になっている。

東京都区部の動向から判断すると、12月の全国CPIコアは前年比+0.3％と、11月からさらに大幅に伸びが縮小すると予想される。その先についても、原油価格急落による物価下落圧力が強く、早ければ09年2月にマイナスに転じるだろう。09年1月には電気・ガス代が大幅に引き上げられ、CPIを前年比で+0.14％ポイント程度押し上げるとみられるが、石油製品下落の影響がそれを上回る。

また、09年度に入ると（特に5月以降）、マイナス幅が急速に拡大してくる可能性が高い。前年（08年）の同時期において、石油製品や食料品価格の上昇ペースが急だったことの裏が出ることに加え、過去の原油・穀物価格の下落を反映する形で、4月に電気代の大幅値下げや政府の輸入小麦売渡価格の引き下げが行われることなどが背景にある。また、こうした資源価格急落による物価下落に加えて、今後の景気

の急激な悪化を受けて需給ギャップが大きく拡大していくにつれて、物価には追加的な下押し圧力が加わると考えられる。2008年11月のエネルギーと食料品除くCPIは前年比0.0%となっているが、これは今後マイナスに転じてくるだろう。

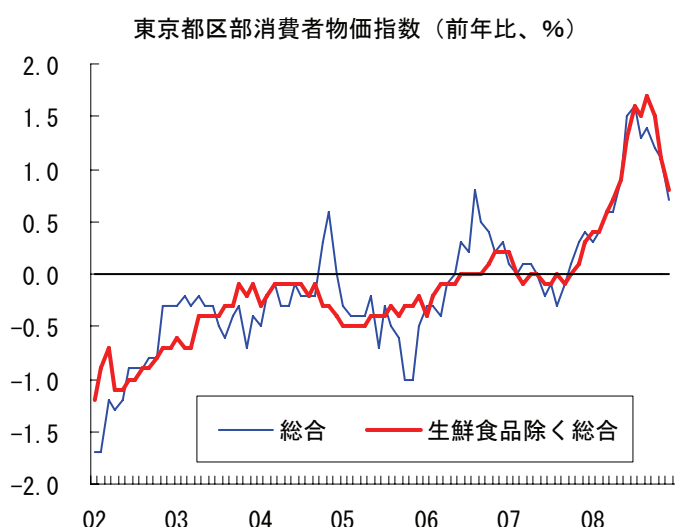
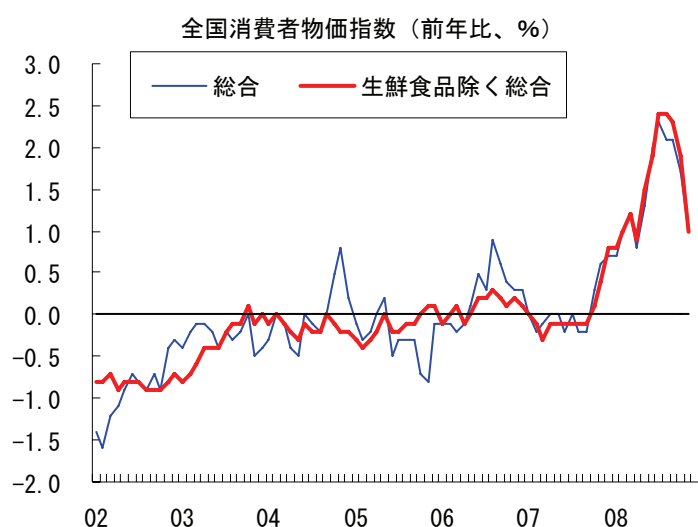
CPIのマイナス幅が最も大きくなるのは来年夏場と予想されるが、原油価格や為替レート、食料品価格の動向次第では、マイナス幅が▲2%を超えて拡大する可能性も十分ある。物価下落は、一般に思われている以上のペースで進む可能性が高い。09年にはデフレ色がかなり強まるだろう。

○ 食料品の上昇基調にも変化が

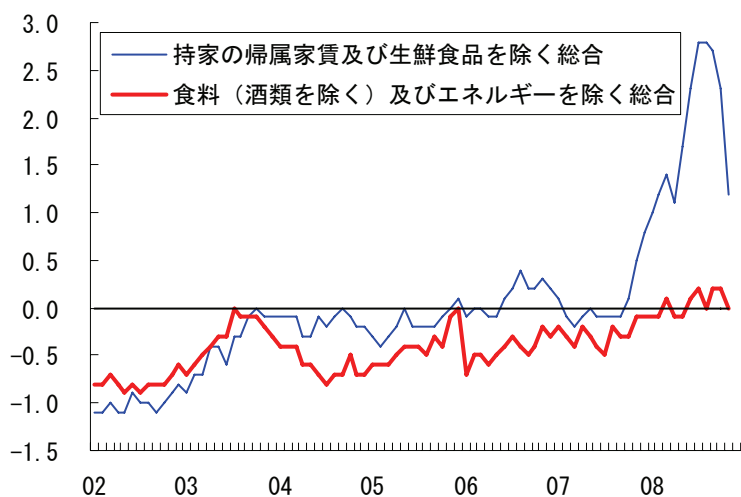
11月の全国消費者物価はほぼ予想された通りの内容で、意外感はない。石油製品の寄与度低下（寄与度：10月+0.64%ポイント→11月▲0.17%ポイント）で、今月のCPI伸び鈍化のほぼすべてが説明可能である。持家の帰属家賃（木造中住宅）、切り花（きく）、ゴルフプレー料金などが前月から寄与度が小幅拡大、外国パック旅行、サプリメントなどが前月から寄与度が縮小していたが、どれも影響は小さなものにとどまった。

12月の東京都区部についても、伸び鈍化を主導したのは石油製品（寄与度：11月▲0.11%ポイント→12月▲0.28%ポイント）だったが、それに加えて、食料品（生鮮除く）が前年比+3.3%（11月同+3.8%）と2ヵ月連続で伸び率が縮小、寄与度も+0.71%ポイントと、11月の同+0.81%ポイントから縮小していることが注目される。前月比でも▲0.2%と2ヶ月連続の低下である。07年末からみられてきた食料品価格の急上昇には、ここにきて一服感がみられている。過去の原料価格上昇の影響が残っているため、今後低下傾向に転じるとまでは言い切れないが、少なくとも押し上げ寄与は縮小してくる可能性が高いだろう。実際、食品関連における値上げの見送りや値上げ幅の圧縮といった報道がこのところ増えている。食料品は、これまでの物価上昇を石油製品と並んで主導してきたため、今後伸びが鈍化してくれば、物価に与える影響はかなり大きい。

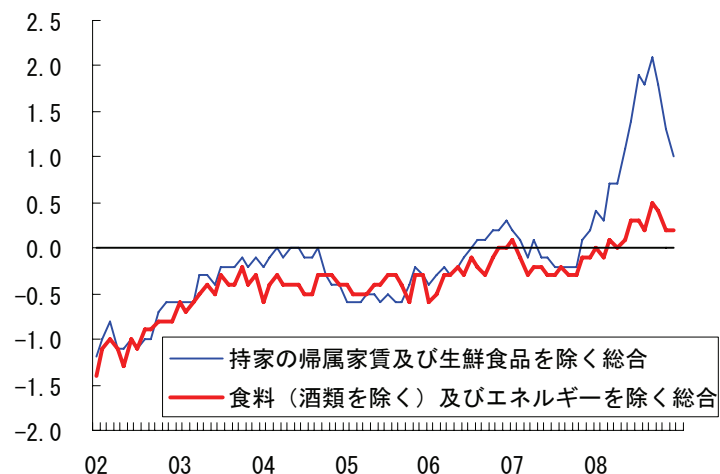
前述の通り、東京都区部の動向から判断すると、12月の全国CPIコアは前年比+0.3%に伸びが鈍化することが予想される。東京都区部の縮小幅よりも全国の縮小幅が大きい理由は、石油製品のウェイトの違いである。石油製品のウェイトが全国の3分の1程度である東京都区部ではガソリン価格下落の影響が小さかったが、全国でみると影響はかなり大きくなる。12月の全国CPIは、石油製品だけで11月から▲0.58%ポイント寄与度が縮小する見込みだ（東京都では▲0.17%ポイント）。



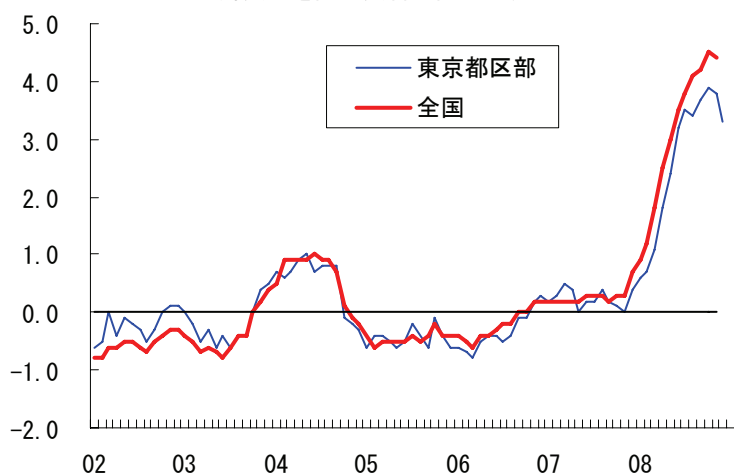
全国消費者物価指数（前年比、%）



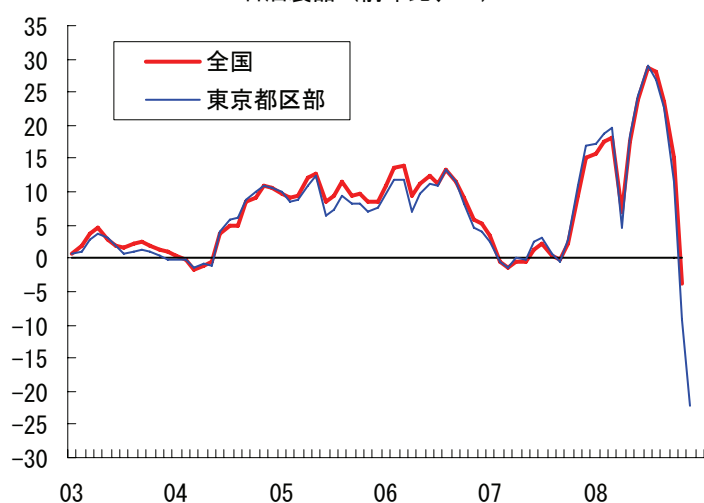
東京都都区部消費者物価指数（前年比、%）



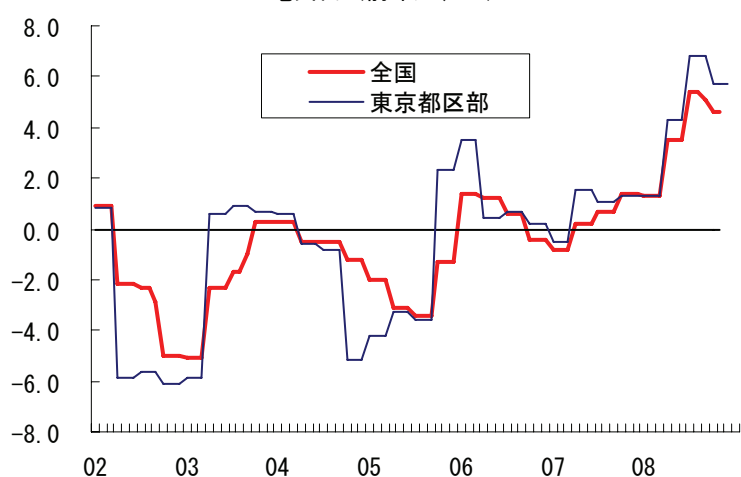
生鮮食品を除く食料（前年比、%）



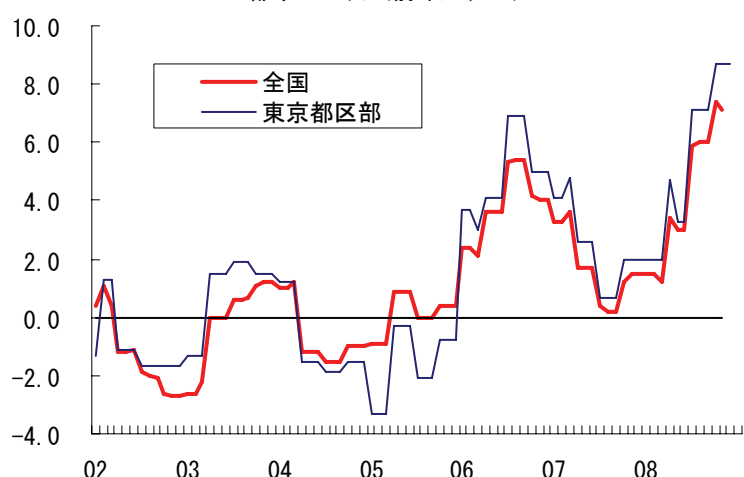
石油製品（前年比、%）

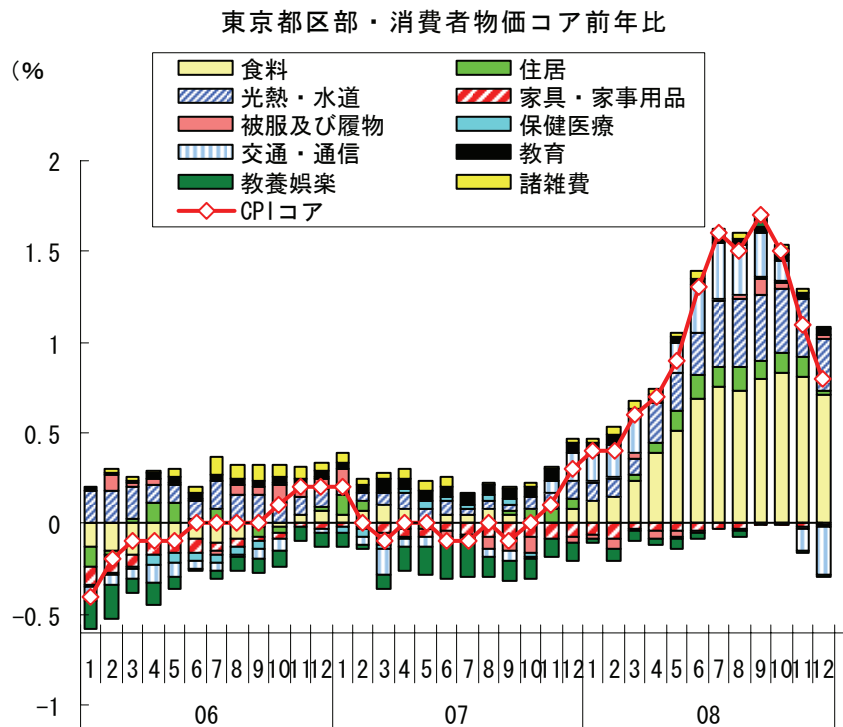
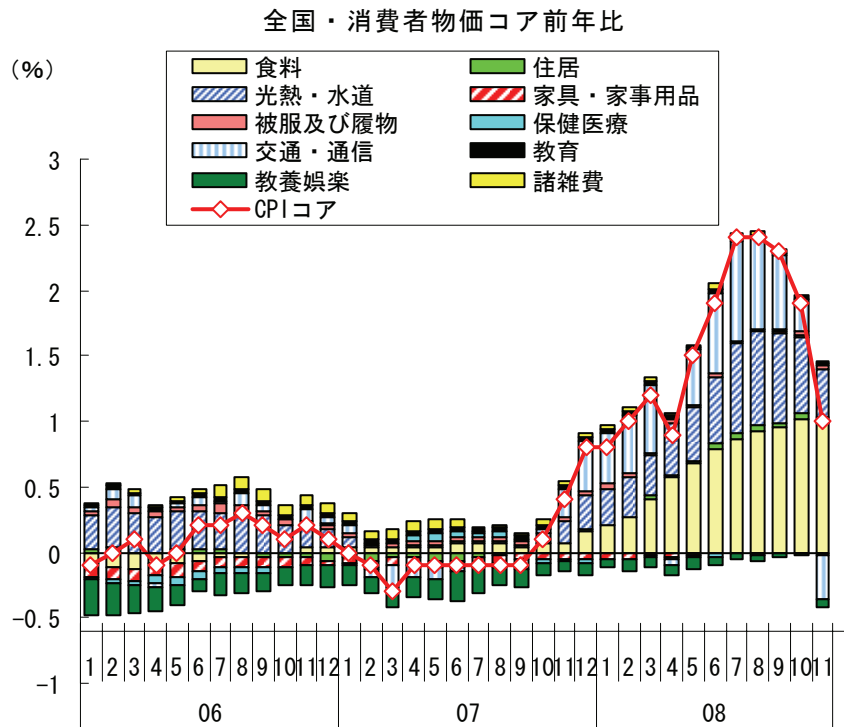


電気代（前年比、%）



都市ガス代（前年比、%）





グラフの出所はすべて総務省統計局「消費者物価指数」